

令和6年度
学校評価報告書

香川県立善通寺支援学校

令和6年度 学校評価

1 はじめに

学校教育法42条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同43条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員やPTA代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立っている。

2 令和6年度学校評価の取組

(1) 令和6年度学校評価における課題と重点目標及び方策

対象者	課題	重点目標	方策
児童 生徒	学校生活の充実	安全安心に充実した学校生活を送れるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の推進を図る。	「実態表」を活用するとともに、教員間の連携を密にすることにより、個に応じた支援の検討および実践に努める。また、日常の関わりにおける観察より得られる児童生徒の状況や変容を把握し、日々の実践に活かせるよう努める。
保護者	情報の提供と保護者の交流	学校の様々な情報を発信することで、理解や参画を促す。保護者同士の交流をさらに図る。	各部、各校務部と連携し、保護者の要望に応じた情報提供や理解啓発への取組を図るとともに、保護者同士の交流が活発になるよう保護者交流会等の充実を図る。
医療 機関	情報交換と連携	様々な機会を捉え、適切な方法で情報交換を行い、連携の充実を図る。	児童生徒の主治医が属する医療機関との連絡や情報交換が円滑に行えるよう努め、医教連携の強化を図る。医療センターにおいては、CNT会等により各病棟との情報交換を適切に行い、授業等教育活動の再構築と充実を図る。
教職員	授業改善と教職員の専門性向上	児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める。	児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるための教員研修を充実させるとともに、ICTを活用した効果的な学習の推進を図る。さらに、部会やグループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となって指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

① 学校評価の方法

上記の「令和6年度学校評価における課題と重点目標及び方策」をもとに、各部の経営方針及び各校務部の経営計画を決定した。職員会議での周知を経て、教職員共通理解のもと、今年度の教育活動や学校運営に取り組んだ。それらの評価については、12月初めに保護者、教職員、四国こどもとおとなの医療センター職員を対象とするアンケートを実施し、その結果を集計、分析したものをもとに自己評価としてまとめた。2月19日、学校関係者評価委員会において自己評価を報告し、学校評議員及びPTA代表者から意見を聴取したうえで評価結果を取りまとめる。そしてこれらを参考に、今後の教育活動や学校運営の改善に向けて、令和7年度の重点目標及び方策を策定していく。

② 学校評価の年間スケジュール

月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ ク ル で 実 施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価委員会設置【校長、教頭、部主事、各校務部長】 ・運営委員会 ・職員会議で今年度の「課題と重点目標及び方策」について説明
5月		<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価委員会 令和6年度学校評価計画及び実施に関する検討 ・職員会議で令和6年度学校評価計画及び実施に関する周知 ・第1回「学校生活に関する生徒アンケート」実施、集計、分析等 ※1月に同様のアンケートを実施
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評議員会 各部経営計画、校務部経営計画、評価項目等説明、授業見学等
9月		
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校評価委員会 「学校評価アンケート（生徒・保護者・医療機関・教職員対象）」項目の検討
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・企画運営委員会及び職員会議で「学校評価アンケート」実施について説明
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」実施、集計等
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・各学部・校務部で「学校評価アンケート」集計結果の分析等 ・第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等 ・第2回「学校生活に関する生徒アンケート」実施、集計、分析等
2月		<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会（学校評議員、PTA会長・副会長） 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で学校評価結果報告 ・学校評価の結果公表（学校ホームページ） ・学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

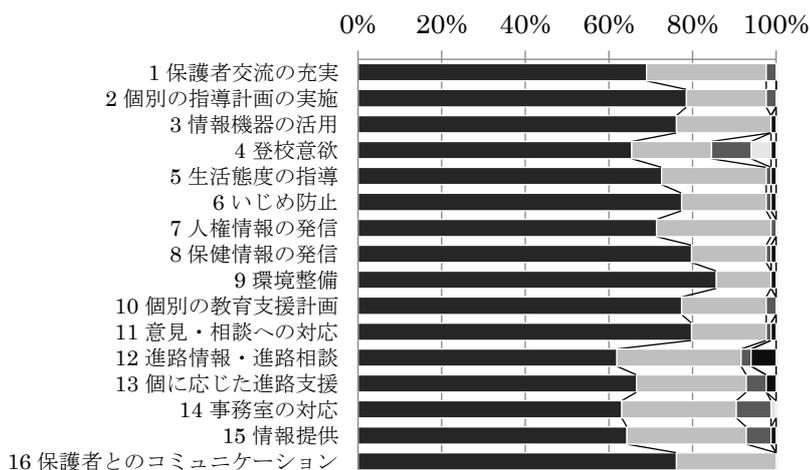
3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

<保護者>

	質問項目	評価項目
1	学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	保護者交流の充実
2	個別の指導計画について、十分な説明がされていますか。	個別の指導計画の実施
3	学校は、児童生徒の実態に合わせて、授業や津でパソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどを活用していましたか。	情報機器の活用
4	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	登校意欲
5	教職員は、お子さんの生活態度や社会ルールを守ることにについて指導していますか。	生活態度の指導
6	学校は、「いじめ防止基本方針」に基づいて、お子さんが安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
7	学校は、人権や人権問題についての情報を適切に提供していますか。	人権情報の発信
8	学校は、おたより等を通して、保健や食育に関する情報を分かりやすく伝えていきますか。	保健情報の発信
9	学校内の清掃は、行き届いていますか。	環境整備
10	学校は、お子さんの「個別の教育支援計画」を本人・保護者の願に基づいて作成し、適切な支援を行っていますか。	個別の教育支援計画
11	学校は、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	意見・相談への対応
12	学校は、「進路だより」や掲示板、キャリア支援室を活用して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行っていますか。	進路情報・進路相談
13	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
14	事務室窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
15	学校は、保護者が求めている情報を提供できていますか。	情報提供
16	学校は、保護者の皆さんとコミュニケーションをとることができていますか。	保護者とのコミュニケーション

保護者(配付108 回収84 回収率77.8%)

「よい」「おおむねよい」と回答した保護者の割合(学部等別)(%)



	小	中	高	院内
1	100.0%	95.2%	96.9%	100.0%
2	100.0%	95.2%	96.9%	100.0%
3	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%
4	93.3%	61.9%	87.5%	100.0%
5	100.0%	95.2%	100.0%	93.8%
6	100.0%	95.2%	100.0%	93.8%
7	100.0%	95.2%	100.0%	100.0%
8	100.0%	95.2%	100.0%	93.8%
9	100.0%	100.0%	100.0%	93.8%
10	100.0%	90.5%	100.0%	100.0%
11	100.0%	100.0%	96.9%	93.8%
12	93.3%	95.2%	96.9%	75.0%
13	100.0%	95.2%	90.6%	87.5%
14	93.3%	76.2%	93.8%	100.0%
15	100.0%	90.5%	90.6%	93.8%
16	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

保護者対象のアンケートについて

全体として概ね良好な評価を得ている。特に「3 情報機器の活用」「9 環境整備」についての評価は「よい」「おおむねよい」が98.8%と高評価を得ている。前者に関しては、タブレット端末を活用した授業や支援が定着したこと、また職員研修の積み重ねにより、職員全体のスキルアップが図られたことが要因と考える。また、後者は毎日昼休みに掃除の時間を確保、児童生徒職員がこつこつと取り組んでいる成果と考える。

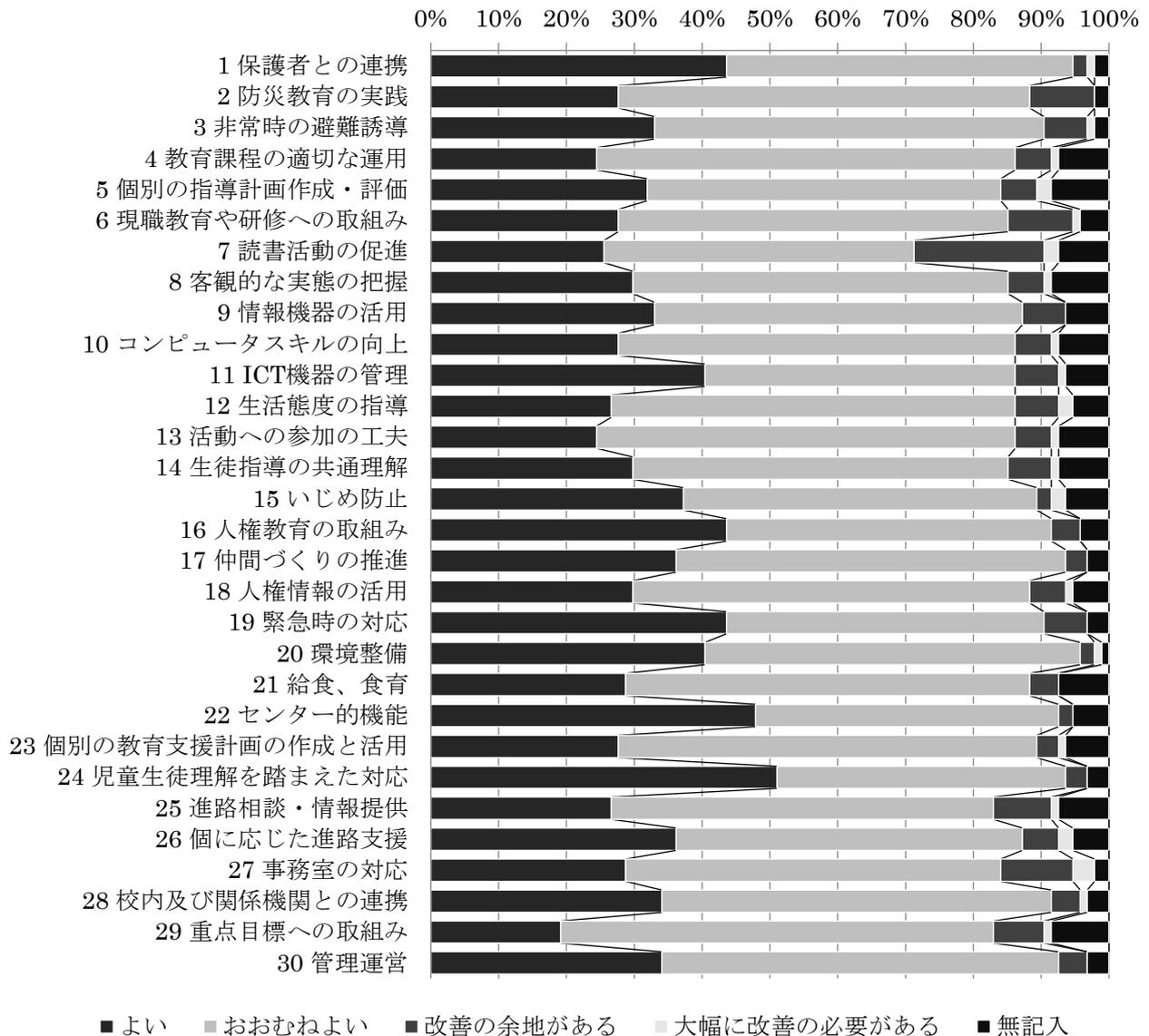
さらに、「16 保護者とのコミュニケーション」については、どの学部においても「よい」「おおむねよい」の評価が100%となっており、職員と保護者の日々の良好なやり取りの積み重ねが評価されたものとする。

一方で、「4 登校意欲」「14 事務室の対応」については少し評価が低い。特に「4 登校意欲」に関しては、学校にいいイメージがなく、転入学してくる児童生徒が多数いる本校の毎年の課題とも言える部分である。「4 登校意欲」に関しては、後述「4 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策」の生徒指導部、中学部のところで、「14 事務室の対応」については事務部のところで、改善策について触れる。

<職員>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは保護者に対し、学校行事や学習状況について様子を伝えるなどして連携に努めていますか。または、働き掛けに協力ができていますか。	保護者との連携
2	あなたは、児童生徒の実態に応じた防災教育に取り組んでいますか。または取組に協力ができていますか。	防災教育の実践
3	あなたは、非常時に児童生徒を安全に避難誘導することができますか。	非常時の避難誘導
4	個別の指導計画や学習指導計画を活用し、PDCA(計画・実施・評価・改善)を行って、授業に反映することができましたか。	教育課程の適切な運用
5	指導要録や個別の指導計画について、手引きや用字用語集を活用し、作成することができましたか。	個別の指導計画作成・評価
6	専門性や資質向上のために現職教育や研修に積極的に取り組んでいますか。	現職教育や研修への取組み
7	児童生徒の読書意欲を高めるための働き掛けや工夫をしていますか。	読書活動の促進
8	各教科等で、目標を明確にした指導を行うために児童生徒の実態把握ができていますか。	客観的な実態把握
9	あなたは、学校でパソコンやタブレット型コンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、授業や行事等で必要に応じて使うことができますか。	情報機器の活用
10	情報研修会や情報メディア部だよりは、教職員のコンピュータスキル向上に役立っていますか。	コンピュータスキルの向上
11	情報メディア部は、ICT 機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	ICT 機器の管理
12	あなたは、児童生徒の生活態度や社会ルールについて、卒業後を見据えた指導をしていますか。	生活態度の指導
13	あなたは、サークル活動、委員会活動、学部集会に児童生徒の意見を取り入れて、参加しやすいように工夫していますか。	活動への参加の工夫
14	各部会等で、生徒指導に関する情報交換や具体的な指導方法が協議されていますか。	生徒指導の共通理解
15	あなたは、「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
16	あなたは、児童生徒の自尊感情や人権感覚が育つように意識して指導していますか。	人権教育の取組み
17	あなたは、児童生徒が他の児童生徒、教員との関わりを通じて成長できるように働き掛けをしていますか。	仲間づくりの推進
18	あなたは、人権や人権問題に関する情報を児童生徒の指導に役立てていますか。	人権情報の活用
19	あなたは、児童生徒の病状について周りの人と情報を共有し、緊急時に適切な対応ができるようにしていますか。	緊急時の対応
20	あなたは、校舎内外の清掃活動や環境整備に努めていますか。	環境整備
21	あなたは、給食や食育に関して理解を努め対応していますか。	給食、食育
22	あなたは、学校が学校見学や連携訪問などを通して、小・中学校等の教員への相談支援・情報提供などのセンター的機能を果たしていることを知っていますか。	センター的機能
23	あなたは、活用マニュアルや記入例を基に、児童生徒の実態や本人・保護者の願いに応じた「個別の教育支援計画」を作成し、適切に支援をしていますか。	個別の教育支援計画の作成と活用
24	あなたは、児童生徒の病気や障害特性の理解を努め、対応していますか。	児童生徒理解を踏まえた対応
25	学校は、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路相談・情報提供
26	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
27	事務室の窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
28	あなたは、教職員や医療及び福祉等の関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	校内及び関係機関との連携
29	あなたは、学校評価の重点目標を達成するために、「実態表」(Co-MaMe、学習到達度チェックリスト等)や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取組ができていますか。	重点目標への取組み
30	あなたは、教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処ができていますか。	管理運営

職員（配付94 回収94 回収率100.0%）



職員対象のアンケートについて

全体として概ね良好な評価を得ている。保護者対象のアンケートと同様に ICT 関連の項目「9、10、11」、環境整備に対する項目「20」、保護者との連携に関する項目「1」、について評価が高い、加えていじめ防止「15」、人権・同和教育関連の項目「17」、センター的機能「22」、児童生徒理解についての項目「24」、などが高い評価となっている。

一方で、読書活動の促進に関する項目「7」、進路指導に関する項目「25」、についてはやや評価が引き。どちらも児童生徒の実態が幅広い本校の課題である。後述、研究部と進路指導部のところで改善策に触れる。また、保護者対象のアンケートと同様に、事務室の対応について「27」、の評価がやや低い。事務部のところで改善策について触れる。

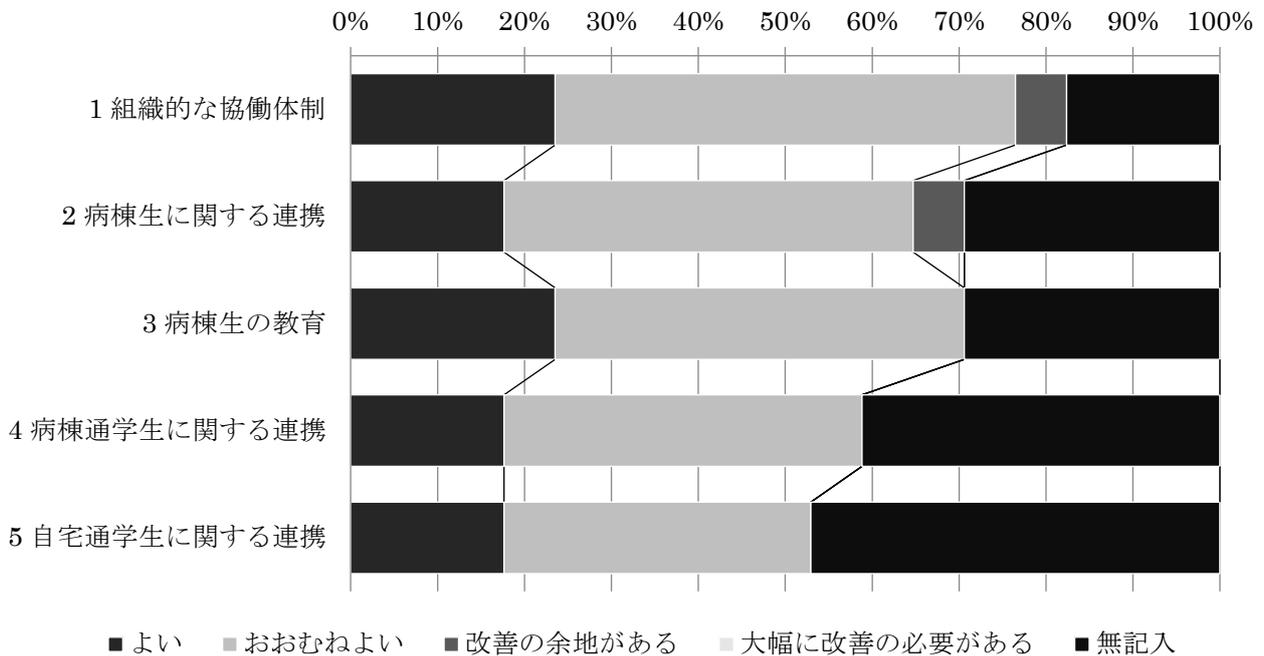
また、今年度より始まった、児童生徒の客観的な実態把握に関する取り組みの部分「6」、の項目もやや評価が低く、次年度も継続して取り組んでいく必要性を感じている。

なお、無記入の回答がみられるのは、事務職員や学校看護師に対しても同じ内容のアンケートを実施しており、関わりのない項目についての回答を避けるため、無記入を選択している。

<医療機関（四国子どもとおとなの医療センター）>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	病院と学校の組織的な連絡・協議の体制は、現状どおりでよいですか。（定期的に行事予定やたより等を配付する、必要に応じて関係者会やDNT会を開催する等）	組織的な協働体制
2	学校は、病棟生の教育や療育について連携を図ることができていますか。（日々の連絡、CNT会等）	病棟生に関する連携
3	病棟生への授業形態は、現状（感染状況に応じた対面授業）でよいですか。	病棟生の教育
4	学校は、病棟からの通学生について、連携を図ることができていますか。（日々の連絡、医教連絡簿、カンファレンス等）	病棟通学生・体験登校生に関する連携
5	学校は、自宅からの通学生について、必要に応じて貴院の主治医等と連携を図りながら教育を行っていますか。	自宅通学生に関する連携

四国子どもとおとなの医療センター(配付18 回収17 回収率94.4%)



医療機関対象のアンケートについて

全体として良好な評価を得ている。今後とも日々の病棟とのやり取りを大切にしていきたい。また、児童生徒個々のケースの情報共有の場として「カンファレンス」を、病棟と学校の情報共有の場としての「CNT会」を、病院と学校の情報共有としての場としての「DNT会」を開催し、連携を取っていきたい。

4 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様々な情報を発信することで保護者との連携を深め、保護者のPTA行事への参加や保護者同士のつながりを促進する 達成度 A 防災教育の実施と災害時の避難体制の確立と充実を図る 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> （保護者との連携） 全体の96.7%がABと回答しており昨年度より高い評価を得ている。日頃から学校行事や児童生徒の様子について伝えるなど、保護者と積極的に関わっていると考える。 （非常時の避難誘導） 全体の92.4%がABと回答している。避難訓練では、関係機関と連携して防火扉を通る体験を行ったり、避難通路にガラスや物が散乱した状況や逃げ遅れた生徒がいることを仮定して自衛防災隊における各係の役割を確認したりした。教職員が児童生徒の不安に気づき、安心・安全に避難誘導するよう努めることができたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA行事への参加者の増加促進 * PTA研修視察の実施日を分散することで、休みを取りにくい保護者も参加しやすいようにする。 災害時の避難体制 * より安全に避難し、保護者にスムーズに児童生徒を引渡せるような体制を検討し確立する。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の適切な運用により、児童生徒の実態に応じた学習の推進を図る 達成度 A 諸表簿等の正確な記載の徹底と合理的な処理を行うための環境整備に努める 達成度 B 	<ul style="list-style-type: none"> （教育課程の適切な運用） 教育課程振り返りシートを活用して、各グループで今年度を振り返り、児童生徒の実態に応じた教育課程の検討を行った。また、PDCA（計画・実施・評価・改善）という用語も浸透してきており、学習指導年間計画や個別の指導計画を活用しながら、概ね授業を実施できている。 （個別の指導計画作成・評価） 諸表簿の正確な記載と統一を図っていくために、手引きや本校独自の用字用語集を活用するよう、随時教員への呼び掛けを行うことで、この数年手引き等を活用する教員の率が上がってきた。個別の指導計画において、児童生徒の実態に合わせ、観点別学習状況を踏まえた文章記述による学習評価ができるよう、教務部の各グループで検討し記入の手引の改訂を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 来年度諸表簿の記入の手引が改訂されるため、変更点を確認し、より一層正確な記載を心掛けるよう周知し点検する * 諸表簿の記入の手引を十分確認し、年度始めの記入説明会で、変更点についての説明を行ったり、疑問点は係で検討共有しながら点検を行ったりする。
研究部	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の学習面や生活面での困り感を適切にとらえ、目標を明確にした指導を行うために客観的に実態把握をする 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> （客観的な実態把握） 児童生徒の実態をアセスメントできるシートを数種類準備し、客観的な指標に基づき児童生徒を評価分析し、教員間で共通理解を図った。初年度の取組みであったが、教員間で児童生徒の主観的な評価から客観的な評価、実践へと変容が見られた。一定の評価は得られたが、さらに実践が深まるように次年度につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態表をもとにアセスメントしたシートを持ち寄り教員同士で話し合い、病弱教育における児童生徒の理解力向上に努める * 日時を設定し、児童生徒の理解につながる話し合いの場を設定する。 （読書活動の促進） 図書室の活用や読書への意識の向上 * 図書委員によるポスター作成や呼び掛けを行う。読書集会の開催。

<p>情報メディア部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業や、iPadでのATを活用できる教員を育成する 達成度 B サーバーを経由したデータの転送・保存など、Wi-Fi環境を有効的に活用する方法を定着するとともに、ネットワークを活用した、業務負担軽減の方法を模索する 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> (情報機器の活用) ABの回答の割合が95.2%とかなり高いが、スイッチ等の活用については、夏季に研修会を行ったものの、貸出状況を見ると、まだまだ浸透出来ていないと感じる。 (情報機器の活用) 職員会議の資料など、iPadを使用したペーパーレス化や、教材などの教員間での共有化など、かなり浸透してきたと感じる。来年度は更に電子黒板使った、ネットワークの活用について、有効に活用できる方法について考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> AT技術の更なる伝達 *地道な研修会の実施と、実践事例の伝達。 電子黒板の有効活用 *機器へのネットワーク設定と、便利な使用方法についての研修会実施。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情や自己存在感を高められるような、充実した特別活動やサークル活動を推進する 達成度 B よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う 達成度 A 問題行動等の未然防止や早期解決のための体制づくりをする 達成度 B 	<ul style="list-style-type: none"> (登校意欲) (活動への参加の工夫) (生徒指導の共通理解) 児童生徒会役員が中心となり、行事の企画や運営を行うことができた。院内の生徒に手作りのプレゼントを準備したり、生徒の発案によるイベントを実施したりすることで、自主的に参加する生徒が増えてきた。教職員のアンケートでもABが93.1%と高評価を得た。一方で、児童生徒の登校意欲に関するアンケートでは、ABが84.5%となっており、児童生徒の意見を広く聞く必要性を感じている。 (生活態度の指導) 保護者のABの割合は97.6%、教職員は95.2%といずれも評価が高く、学校生活全般において、機会をとらえて指導できていると思われる。児童生徒会でもあいさつ運動を行い、進んであいさつをする雰囲気づくりができた。 (いじめ防止) 今年度は登下校中の交通事故が3件あり、事故発生時の対応の仕方について集会で中・高等部の生徒に話をした。また、保護者から「いじめ防止の取り組み、相談方法など広報してほしい。」という意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 役員以外の児童生徒の意見を聞く機会がない・行事の回数を考えると、予算が少ない *児童生徒の意見を聞く機会を増やして、さらに活動内容を工夫していきたい。予算を見直したい。 社会に出るためのルールやマナーが十分に身に付いているとはいえない *外部講師による講演や、校外での活動を積極的に取り入れる。 問題が発生する前の取り組みを強化する必要がある *HPや学校行事を通じて啓発・発信をしていく。
<p>人権・同和教育部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育に対する正しい認識と共通理解を促すために職員研修や保護者啓発を行う 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> (人権情報の活用) 職員研修では丸亀市スポーツ協会の職員から障害者野球チーム「チャレンジャーズ」の活動などについて講演をしていただいた。障がい者の自己実現に向けての活動や思いを理解することができた。 人権に関するイベント情報や人権啓発のポスターを校内で掲示することにより、人権について考える機会を作ることができた。人権だより「心のとびら」を各学期に発行して、校内での人権行事について発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して職員研修や保護者啓発を行うとともに、研修の人権課題と講師選定を早く行う *「心のとびら」や職員研修による詳しい情報提供や啓発を行っていく。

<p style="text-align: center;">保健環境部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の生活習慣の改善と保護者、職員への情報発信 達成度 A ・緊急時対応訓練、医学講座など、研修の内容や方法の工夫 達成度 B ・校舎内外の環境整備 達成度 A ・食に関する指導を推進するための情報発信 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> ・(保健情報の発信) 児童生徒保健委員会で、保健目標を呼びかける掲示や放送をしたり、衛生調べを行ったりすることで、健康を意識することができていると感じる。児童生徒の日々の体調については保護者と共有し、おたより通じて健康に関する理解を促している。 ・(緊急時の対応) 緊急時に対応できるように内容を工夫して全グループで訓練を行った。また、四国こどもとおとなの医療センターの医師から医学講座をしていただいた。医学的知識を日常生活の中で情報交換できる場が少ないというご意見があった。 ・(環境整備) 大掃除週間に重点箇所を呼びかける放送をしたり、月1回の外回り清掃を行ったりした。職員清掃では、日頃行き届かない窓や玄関付近の清掃を行い、校内が清潔に保たれている。 ・(給食、食育) 給食だより、もぐもぐ掲示板で食に関する情報を発信した。給食掲示板で、献立やそれに関する豆知識を毎日お知らせすることも定着し、食に関して理解が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する意識の向上 *衛生調べの結果を児童生徒に知らせる。 ・緊急時の対応について改善の余地があると5名の職員が回答 *児童生徒の病状の共通理解の場をもつ。研修回数や内容の検討を行う。 ・職員清掃実施を引き続き実施するか否か *「希望の会に向けて」として教員で清掃に取り組む。高等部の作業に依頼することも考える。 ・給食の時間を楽しく(給食アンケートより) *給食の時間の放送をしたり、リクエストメニューを取り入れたりする。
<p style="text-align: center;">教育支援部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の相談支援体制の充実 達成度 A ・「個別の教育支援計画」及びサポートファイル「かけはし」の作成の推進 達成度 A 	<ul style="list-style-type: none"> ・(意見・相談への対応) スクールカウンセラーや教育相談担当が児童生徒や保護者からの相談に対応することができた。保護者からも相談できているや話しやすい環境にあるとのご意見をいただいている。 ・(個別の教育支援計画の作成と活用) 学校と家庭間での連携が図られており、保護者からもよく考えられているという評価もいただいている。引き続き連携を図りながら充実した支援計画の作成を進めていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを抱える児童生徒についての早期発見と支援をより進めていく *学級との連携を進め、情報の共有に努める。 ・福祉や労働や医療との連携についても、情報の共有ができるようにする *ケース会議や担当者会議などで得た情報の取り扱い方を周知していくようにする。

<p style="text-align: center;">進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けの強化 達成度 B 	<ul style="list-style-type: none"> ・(進路情報・進路相談) 「進路だより」、行事のチラシ、掲示板等で、情報提供できるように努めた。AB の評価が 90% 台であった。 今年度から始まった福祉の居場所説明会の案内を、PTA 総会や配布プリントで周知し、参加を呼びかけ、各学部から数名の保護者・本人が参加した。 総務部と連携し、保護者座談会や PTA 研修視察に参加し、保護者との交流や相談に応じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路だより」や掲示板等を活用し、引き続き情報提供に努める *事業所からの通信や、催し等のお知らせの仕方を検討する。 ・進路についての関心を高める *担任と連携し、個別にも参加を促す。 ・情報の共有 *保護者と話した内容を担任と共有する。 ・(進路相談・情報提供) 卒業生の進路先の共有 *中学部・高等部の生徒の卒業後の進路先を、職員会で共有する。 ・(個に応じた進路支援) 個に応じた進路支援 *普段から担任と話したり、必要に応じて学級懇談に入ったりして、生徒の実態を把握した進路指導ができるようにする。 また、JST からの情報がより伝わるように、職員室にも滞在してもらうようにする。
<p style="text-align: center;">小学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める 達成度 A ・校内及び関係機関との連携 ・管理運営面 	<ul style="list-style-type: none"> ・(重点目標への取り組み) A、B 評価は 100%。昨年度より 4.2% アップ。児童の実態を学級やグループで話し合い、授業を通して効果的な指導の在り方を探ってきた。また、チェックリストを使用しての実態把握は、4 年前から段階的に実施しており、客観的な視点で目標や指導内容に活用してきた。研修報告を 10 月の部会で行い、指導方法等ためになる情報を職員で共有し、指導力向上を図った。 ・(校内及び関係機関との連携) A、B 評価は昨年度に引き続き 100%。知り得た情報は、部会やグループ会、朝礼、日々の会話のなかで互いに伝えることを心掛けた。また、随時グループ主任会を行い、グループ間の情報を共有し、協力体制のもと進めた。必要に応じて、病院や福祉等関係機関につないだり連携したりして、児童を取り巻く環境も含めてサポートしてきた。 ・(管理運営) A、B 評価は昨年度に引き続き 100%。不意の事態も起きたものの、迅速かつ誠実に対応した。再度起こらないように、各グループ主任を中心に対策を講じ、部で共有した。また、事務処理等は、適切に対処した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上を図る *研修等で得た知識や情報をその都度部会で共有し、高め合う。 ・小学部職員全員が『みんなて小学部全体を観る』という意識を高める *小学部児童同士の連帯感を育てる関わりを考えていく。 ・継続実施

<p>中学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める 達成度B ・校内及び関係機関との連携 ・管理運営面 	<ul style="list-style-type: none"> ・(重点目標への取組み) 実態表を活用して生徒の客観的な実態把握に努めた。登校や登校しても教室に入ることが難しい生徒に関してはタブレット端末を用いたリモート授業を行い、家庭と学校、校内の教室と特別教室をそれぞれ結ぶ形で実施している。登校につながるようリモート授業を行い動機づけにしている。一方で、登校意欲に関してABの割合が61.9%という結果が出ている。次年度も客観的な実態把握に努め、生徒に応じた指導に取り組んでいきたい。 ・(校内及び関係機関との連携) 部内の連携については引き続きグループ会や部会で常に情報交換を行い、共通理解を図ったり、協力体制の構築を図ったりし、中学部全体で生徒の指導に当たっている。 ・(管理運営) 教室環境等の安全面や事務処理の対処についてAB評価をした教員が95.2%であった。防災訓練や感染症予防について日々取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に応じた指導、授業改善 *客観的な実態把握と指導内容・指導方法・指導体制の改善。 ・関係小中学校、諸機関との連携 *生徒・保護者・職員間での情報共有と必要に応じた関係者会の実施。 ・継続実施
<p>高等部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める 達成度A ・校内及び関係機関との連携 ・管理運営面 	<ul style="list-style-type: none"> ・(重点目標への取組み) 実態表や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取組みに約92%の肯定的回答であった一方、達成できなかったとの回答も得られた。 ・(校内及び関係機関との連携) 教職員・関係機関との情報交換・連携した指導については、おおむね現状でよいとの意見が最も多く、約95%の肯定的回答があった一方、改善を大幅に若しくは余地があるとの回答も得られた。さらに関連して、病院関係者への協働体制・連携に関する質問では、おおむね現状でよいとの意見が最も多かったが、改善の余地があるとの回答も得た。 ・(管理運営) 教室環境等の安全面や事務処理などの適切な対処に95%を超える肯定的回答があり、おおむね現状でよいとの高い評価結果である。しかし、改善の余地があるとの回答も得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態表活用の定着 *研究部と協力し、全体、グループ、個人の研修の場を設け、職員のスキルアップを図る。 ・生徒の学校卒業後の進路を見据えた連携 *医療、福祉はもとより、生徒の卒業後の進路も見据えて、行政や労働機関との連携を図るため、適宜会を開く。得られた情報を部会等で職員に発進し共通理解を図る。 ・継続実施
<p>事務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室窓口や電話の対応、取り次ぎについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・(事務室の対応) ABの割合が保護者アンケート90.5%、職員アンケート84%となつている。フリー記述の欄に「愛想がない」「ひどく事務的」「挨拶もない人がいる」「話の途中で次の対応に進もうとする」「登校しづらい次席理由を細かく尋ねられるとつらい」「部、学年、組、名前を名乗っていても担任のフルネームを求められることがあり、困ったことがある」などの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成と理解啓発 *電話対応について不慣れな者もいるが、適切な対応が身につくように、人材育成に努める。また、周りの理解を得られるように啓発していく。

※達成度 A：ほぼ達成することができた

B：おおむね達成することができた

C：あまり達成することができなかった D：あまり達成することができなかった

※評価

A：よい B：おおむねよい C：改善の余地がある D：大幅に改善の余地がある E：無記入

5 学校評議員及び学校関係における評価委員会

令和7年2月19日に学校評議員及び学校関係者（PTA 会長及び副会長）による評価委員会を実施し、以下のよう
な意見を得た。これらの意見を踏まえ、次年度の教育活動や学校運営の改善に生かす。

評議員より

・教育活動として、たくさんの楽しそうな交流が行えている。感染症に対して注意を払って計画実施できている。
一方で社会では、新型コロナウイルス感染症が5類になり、マスクの着用や手指消毒など、まったく気にしていな
い者もたくさんいる。流行期などには感染症対策の発信や啓発も行ってほしい。

・中学部において、テストの際に「受けない」という選択肢があり、いくつかある選択肢の中から、自分の思いを
選択できるようにしているのはいいことだと思う。

・アセスメント（Co-MaMe）について、大学や小学校中学校などでも使えるのではないかと思う。卒業時にはぜひ、
相談支援事業所等にも見せてほしい。

PTA より

・アセスメント（Co-MaMe）について、保護者に発信してはどうか。教科担当の先生方の共通理解にはぜひ、使っ
てほしい。

・希望の会の小学部の劇に感動した。希望の会、運動会は今後とも小学部、中学部、高等部一緒に行っていってほ
しい。